

# 水稲栽培における高温対策 基本技術の励行 + α

稲の生育に合わせた管理  
よく観察（数える・測る）

乾燥調製  
収穫

- ・早期落水しない！
- ・適期収穫
- ・過乾燥防止（胴割れ粒回避）
- ・色彩選別機の活用



カメムシ  
類の防除

- ・発生が多い場合は、複数回の薬剤防除 早生・晩生は2回推奨
  - ・適期の防除 ★不稔防止 … 出穂期  
★斑点米軽減 … 出穂期8日後
- ※出穂期：ほ場全体の4～5割の穂が出た日



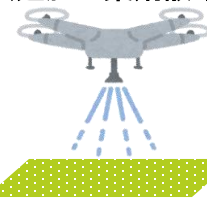
後期栄養  
の確保

白未熟粒の低減

- ・生育診断に基づいた適期・適量の穂肥散布
- ・穂肥の分施肥 1回→2回

省力化

- ・ドローンの活用  
(追肥・薬剤散布)



作業効率化

農地の集積・集約  
ほ場の均平化  
漏水防止

○高温耐性品種の導入

○一発基肥の  
適正時期の施用



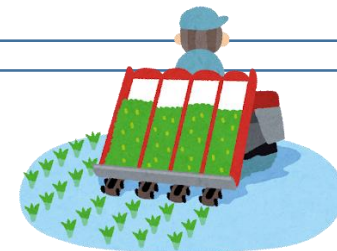
適正な  
水管理

中干し … 適切な期間・程度、干しすぎない！  
中干し後の水管理 … 間断かんがい（飽水管理）、落水は足跡に水がたまる程度まで  
早期落水防止



育苗

- ・近年の温度にあった育苗計画の作成
- ・種子の休眠が深い傾向 浸種は1日以上長めに
- ・籾枯れ細菌病発生防止 30℃を超える温度管理をしない！
- ・籾枯れ病対策には 育苗箱施薬剤を使用



土作り

- ・堆肥・土壌改良資材の投入（土壌診断の活用）
- ・漏水防止（あぜ作りをしっかりと！）：雑草・干ばつ対策
- ・早期の秋耕：気温が高い時期に速やかに実施。稲わらの分解促進、ガス害の発生抑制  
再生稲は、斑点米カメムシ類の栄養源及びヒメトビウンカの越冬場所となる
- ・深耕（15cm：低速でゆっくり耕耘）